

伊豆沼・内沼自然再生シンポジウム

～豊かな伊豆沼・内沼の再生を目指して～

日時：2008年12月21日（日）・22日（月）

会場：エポカ 21

主催：財団法人宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団

後援：宮城県、栗原市、登米市、NPO 法人あぐりねっと 21

※このシンポジウムは三井物産環境基金の助成を受けています

----- プログラム -----

■2008年12月21日（日）

13：00～13：05 開会の辞

財団法人宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団理事長 川合 宏

13：05～14：25 基調講演

「伊豆沼・内沼の自然再生」

東北大学大学院教授 西村 修 氏

「沼の生き物たちのつながり～伊豆沼・内沼の食物網の解析から～」

東北大学東北アジア研究センター教授 菊地永祐 氏

14：25～15：30 ポスターセッション 自然再生に向けた取り組み

発表 10 題（発表題目は次ページに記載）

15：40～16：10 伊豆沼・内沼のいろいろな魅力（各 15 分）

「観光地としての伊豆沼・内沼」

（有）伊豆沼農産 伊藤秀雄 氏

「伊豆沼・内沼のほとりの農家として」

ナマズのがっこう 三塚牧夫 氏

16：10～16：55 パネルディスカッション

「伊豆沼・内沼で自然や人々の関わりをどのように創造していくか」

コーディネーター：斉藤憲治（水産総合研究センター）

パネラー：菊地永祐（東北大学東北アジア研究センター）・嶋田哲郎（宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団）・佐藤大輔（宮城県自然保護課）・伊藤秀雄（伊豆沼農産）・三塚牧夫（ナマズのがっこう）

16：55～17：00 閉会の辞

17：30～19：30 懇親会（エポカ・レストラン）

■2008年12月22日（月）

6：00～6：15 ガン観察地に移動

6：15～7：00 「ガンの飛び立ち観察会」

7：00～8：00 朝食 温かい豚汁料理（サンクチュアリセンター）

8：00～ 「ハスの紙すき体験」

12：00～ 昼食（ふゆみずたんぼの餅米による餅料理）

■ポスター発表演題

「容器栽培ハスの成長記録」

鈴木 康¹・三宅保士¹・鈴木真希¹・三塚ひろみ²・嶋田哲郎³・溝田智俊⁴（1：宮城県本吉響高等学校，2：宮城県一迫商業高等学校，3：宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団，4：岩手大学農学部）

「観賞後のハス利用法考案」

小野智保・菊地由香理・佐々木絵里香・佐藤奈津美・有田康一・小浜暁子・江成敬次郎（東北工大・環境情報工）

「バス・バスターズにおける東北工業大学の取組み」

有田康一・菅野弘亮・鈴木拓也・引地裕司・小浜暁子・江成敬次郎（東北工大・環境情報工）

「伊豆沼・内沼におけるオオクチバス駆除活動」

進東健太郎・藤本泰文（宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団）

「炭素・窒素安定同位体比を用いたオオクチバス当歳魚の餌資源解析」

安野 翔¹・千葉友紀¹・進東健太郎²・藤本泰文²・嶋田哲郎²・鹿野秀一³・菊地永祐³（1：東北大・院・生命，2：伊豆沼・内沼環境保全財団，3：東北大・東北アジア研）

「オオユスリカ幼虫へのメタン食物連鎖の寄与の季節変化」

安野 翔¹・鹿野秀一²・村岡 歩¹・嶋田哲郎³・原 浩太⁴・佐藤洋介⁴・菊地永祐²（1：東北大学大学院生命科学研究科，2：東北大学東北アジア研究センター，3：宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団，4：東北大学大学院農学研究科）

「水田の生き物にとってのふゆみずたんぼ」

東 淳樹・大野達矢・工藤 学・玉井祐輔（岩手大学・農学部・保全生物）

「波付の丸型」と「波付のU型」を使用した水田魚道の設計、設置について

遊佐隆洋・三塚牧夫・佐山雅史・大場 喬・渡邊 真・結城あゆ美・根本信一（ナマズのがっこう）

「伊豆沼・内沼周辺での「田んぼの学校」の取組」

小松純子・及川祐宏・三塚牧夫・秋葉 徹・佐山雅史・門田貴之（ナマズのがっこう）

「タナゴ *Acheilognathus melanogaster* の生活史とその順応的管理

～宮城県伊豆沼・内沼における保全活動～

星 美幸¹・藤本泰文²・進東健太郎²・神宮宇 寛¹（1：宮城大学食産業学部，2：宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団）